

論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

昨年の後半、スペインに出かける機会があった。人口20万人ぐらゐのサマランカという地方都市で、首都のマドリッドから高速道路で2時間以上の上のところにある。それでも多くの観光客を見かけ、街は活力にあふれていた。地元の人によると、サマランカは少し前は古ぼけた街だったが、観光振興を前面に打ち出し、多くの観光客を集める魅力的な街に変身した。

新型コロナウイルスの感染症やウクライナ危機の影響など厳しい状況が続く欧州であるが、観光に支えられてスペインは景気回復が早いといわれている。毎年人口の倍近い数の観光客を受け入れるスペインにとって、観光は経済を支える重要な産業である。私が見た地方都市サマランカの活気はその典型だ。観光を盛り上げるための街づくりを行い、

観光産業盛り上げへ投資を

その成果が出てきているのだ。

欧州経済は全般的に厳しい状況だと言ったが、特にドイツのように製造業への依存度の高い経済の打撃は大きい。ただ、欧州全体で見ると、製造業中心のドイツと観光業を主力産業とするスペインは補完的な位置にある。両方が共存することで、経済の大きな変動をバランスさせることができる。

静岡県はどちらかといえば、製造業のウエートの大きな地域である。自動車関連産業などが県の経済を支えている。ただ、製造業に過度に依存することは、経済変動のリスクを高めることになる。製造業を補完する存在として、農業や非製造業の役割は重要である。とりわけ、今後の成長産業として観光業に期待されるものは大きい。

コロナ禍からの回復の中で、人々の観光への関心が高まっている。東京での動きを見ると、コロナ禍以前は中国からの観光客に過度に依存したものだだったが、最近では中国以外の観光客が大幅に増えている。それだけ観光の幅が広がっているということだろう。円安ということもあり、欧米からの観光客が増えている。アジアでも東南アジアか

らの観光客が増えているという印象を持つ。これらの地域で海外旅行に出る富裕層が増えているということだろう。そして韓国や台湾の人の訪日も増え続けている。

国境を越えて多くの人が動く欧州に比べれば、日本への海外からの訪問客も数はまだまだ少ない。条件さえ整えば、訪日客の数は増えるだろう。それも観光公害を起すような数で勝負の観光誘致ではなく、ゆつくりと訪日を楽しんでもらい、たつぷりとお金を使ってもらえるような付加価値の高い訪日が増えれば、訪日客にとっても受け入れる地域にとってもメリットの大きなものになるはずだ。

サマランカの話に戻るが、この10年、20年、同地は観光需要を拡大させるために、さまざまな取り組みをしてきた。古ぼけた建造物を修復し、人が集まるようなプロジェクトをいろいろと試みてきた。要するに、観光産業を盛り上げるために、投資を続けてきたのだ。静岡も観光需要を拡大させていくためには、それに見合うだけの観光投資を続けていく必要がある。新たな地域産業の柱としての観光産業を育てるために何が必要なのか。真剣に取り組む必要がある。